

「大人の在り方。正しい世界観」

申命記 6 : 4 ~ 12

私たちは子どものことを育てなければならぬと思ってしまう。しかし子どもは私たちが育てなくても育ちます。神様が育つように彼らを造っておられるからです。私たちはそのお手伝いをしているだけなのです。子どもは決して私たちのものではありません。神様から預かっているだけなのです。だから私たちは礼拝を大切に、右にも左にもそれることなく、自らに与えられた道をいつも思い出さなければならぬのです

■ 魂を静め知恵を聴く

もし今、私たちが持っているものをすべて失ったとしたら、それでも私たちは神様を選ぶという正しい判断ができるでしょうか。私たちが子ども達に教えなければならぬのはこの事です。子ども達が「この食べ物が嫌いだ」と言って食べなかった時、別の物をあげようとしなさい。食べたくないのなら食べないでいいのです。私たちは彼らが求めるものに応えようとしてしまいます。私たちは彼らに与えるためにいるのではなく、神様の前に正しく生きようとする生き方を示すためにいるのです。

私たちは今与えられているものが当たり前でないことを伝えていくでしょうか。何も持たずに生まれてきた私たちに、神様はたくさん物を与えてくださっています。そのことを私たちはいつも子ども達に伝えていかなければなりません。だから私たちは歴史から学ばなければなりません。昔のことを知っているお年寄りから、昔何があったのか学ぶ必要があります。昔のことを知らない人が今のことを語る資格はありません。だから聖書は私たちに歴史を伝えようとしているのです。大人の役割は正しい世界観を教えることです。

私たちは子ども達に与えようとしてはいけません。自ら得ようとしなくなるからです。彼らが自ら願うようにならないといけません。そして願ったものをどうやって得られるのか、その過程を一緒に見つけていくのです。

■ 生き様を伝える 個性と比較

神様は、私たちがどのように育ててくれたでしょうか。信仰を持った最初のころは、神様は私たちの願いを聞いて大事にしてくれます。しかしそこから信仰の成長とともに神様は私たちとの関わり方を変えていきます。手を取って立ち上がらせてくださるときもあれば、語りかけず、私たちの成長を待っておられるような時もあります。その過程を経て、私たちは成長し、神様だけに頼るということを学んでいくのです。だから、隣の子と比較してはいけません。神様がそれぞれに関わり方を変えたように、彼らがどのように神様に造られたのかを知り、その子が正しい方向に向くようにそれぞれの方法で関わり方を変えていかなければなりません。

■ 偽らない

親は自分を偽って、あたかも立派であるかのように見せようとします。しかし子どもはそれをすぐに見抜いてしまいます。私たちは生き様を見せていくのです。自分を偽って大きく見せる必要はありません。だから今自分に任されている環境を子ども達にもちゃんと説明しなければなりません。しかしちゃんと説明しないから、子どもが苛立ちます。そして親が比較するので、子どもも隣の子達と比較するようになります。そしてそれを親がかわいそうに思い、買ひ与えるのです。こんなことを繰り返していたら、その子の将来はどうなってしまうのでしょうか。だから、いつも神様の道に戻ろうとする姿を見せていかなければなりません。そんな姿を見て子どもは親を尊敬するようになります。

私たちは誰一人として立派な親はいません。子どもも私たちの弱さを見破っています。大切なことはいくら失敗したとしても、そのたびに神様に立ち返ろうとする姿を見せて、本当に立派な方がいるということ子ども達に教えることなのです。そうすれば、いくら私たちにつまづいたとしても、彼らは正しく生きることが出来るでしょう。彼らに神様を見させるためには、まず私たちが神様を見る必要があるのです。子ども達を心配し、かわいそうに思うその場しのぎの行動が、彼らの将来の道を閉ざしてしまうので

す。パウロがダマスコで神様に会ったとき、神様は彼に何と言ったのでしょうか。「自分の足で立て」と言ったのです。私たちが彼らにできることは、自分の足で立つようにすることなのです

■ 子ども達にむけて 幸せになるために

私たちが幸せになるために、ポイントは2つあります。一つ目は隣の人を大切にすることです。神様に与えられた神の家族を大切にしてください。私たちがお互いに手を取っていくことができれば世界を変えていく役割が与えられます。だから仲間を裏切らないでください。そして裏切られても信じようとしてください。それは私たちがどれだけイエス様のことを何度裏切っても、イエス様はあきらめずに信じてくれているからです。

そして二つ目は素直になるということです。ヨセフはヤコブの11番目の子どもとして誕生し、ヤコブから誰よりも愛されて育ちました。しかし兄弟達からの嫉妬に遭い、穴に突き落とされてしまいます。そしてそこから奴隷としてエジプトへ売られてしまいます。どん底まで突き落とされてしまったヨセフでしたが、王様の夢を解き明かし大飢饉に備えることができました。それによって、彼は王様に次ぐ地位を与えられました。そんな時、食糧難になった兄弟たちが、ヨセフの元にやってきました。ヨセフにも葛藤があったでしょう。しかしその時、ヨセフは心を頑なにせず、素直になって兄弟達を許しました。

モーセも神様に素直になった人物です。イスラエルの民はその後、エジプトで増え広がりますが、奴隷として働かされるようになります。そんなイスラエルの民をエジプトから解放するため、神様はモーセを選ばれました。しかしモーセは話すのが苦手でした。さらに自分の犯した過去の失敗から、自分を否定し、自信がない状態でした。神様の任命を最初は拒否したモーセでしたが、最後には彼は素直に神様に従い、パロのところに向かいました。しかしパロはモーセの言うことを聞き入れようとしませんでした。

その後、神様はエジプトに10の災いをもたらし、最後にはパロの息子の命も奪われましたが、結局パロは最後まで心を頑なに、素直になることはありませんでした。イスラエルの民は一度は解放しますが、その後彼らを連れ戻すために追いかけて向かいます。紅海を前に行き先を失ったモーセ達ですが、モーセは神様に祈り、海が分かれて出来た道を渡り、助かります。そのあとを追いかけてきたパロの軍勢は、元に戻ってしまった海に沈んでしまい全滅しました。

パロはどれだけ神様がモーセを通して語られても、災いが起こったとしても、最後まで心を頑なにしました。ヨセフは兄弟たちに再会したとき、葛藤はあったでしょうが、素直になって彼らを許しました。

モーセも神様から選ばれたとき、苦手なことであっても素直になって神様に従いました。私たちはどちらを決断しますか。

さいごに

神様は私たちが愛しています。私たちが祝福し、導こうとされています。しかしそのために私たちが素直にならなければいけないのです。私たちが素直になって正しい生き方をするために、イエス様は十字架に架かって死んでくださいました。イエス様は誰よりも素直になって、十字架の死にまで従われたのです。

子ども祝福式とは、大人である私たちが正しく生きていくかを確かめる日です。子どもたちに正しい世界観を教え、たとえ失敗したとしても心を素直にし、何度でも神様に立ち返る生き様を示していきましょう。そして子どもたちが生涯神様を見る事ができるように祈りましょう。目に見えるものではなく、目に見えない神様が私たちが愛してくださっているということを知ることが出来ますように。

(要約者:永井匡史)

(2020年11月15日)